富士見BASE

期間終了

得られたことは？

CLOSE

多くの人に来ていただき、
たくさんの出会いが生まれました

閉館日の2023年3月18日にはクローズイベントを実施。オープンイベントで描いたブロック塀のアート作品を使って「このマス、どーこだ？」ゲームを実施。子どもから大人まで参加して盛り上がった。

運営の負担が課題。にぎわいが生まれ、成果も！

期間限定でオープンした富士見BASEは2023年3月18日、クローズイベントを開き、閉館となりました。足掛け10か月でどのような成果があり、課題があったのでしょうか。

2022年6月にスタートした後、3組の事業者はそれぞれ曜日と時間を決めて活動をしました。また、11月からは2階の和室や洋室、庭を使い、コミュニティ活動などを行う10組の利用メンバーを新たに迎えて、場の活用の拡充を図りました。運営日に関しては、開設したホームページ内にカレンダーページをつくり、そこで情報が見られるようにしました。

ただ、事業者はそれぞれ本業としての仕事、学業が別にあるため、常駐はできません。まず家のカギの管理が問題となりました。それは事業者だけがわかる敷地内にキーボックスを設け、最初に来た人が開け、最後に帰る人が責任を持って閉めることにしました。

ほかにも、その日の運営予定者が急に都合が悪くなって閉館にした場合、来訪者にはどのように伝えるのかなどの問題も出てきました。また子どもたちが自由に来て、自由な時間を過ごせる場所としての運営を模索しましたが、もし事故が起きた場合、その責任の所在はどこにあるのか、などの問題も出てきました。

結果的に予想以上に運営面の負担が大きくなり、臨時休業する日も多くなってしまいました。また、人があまりいないことで、来た方に「入りづらい」と思われ、新規の方が来にくくなるという負のスパイラルが起き、来訪者を増やせませんでした。

イベントでは有料のワークショップや物販なども行ってにぎわいましたが、「公益性」もある場所としての運営のため、この短期間では「小商い」的ビジネスを継続的に展開するところまではいきませんでした。

一方、もちろん成果もありました。まずは事業者それぞれがやりたかったことに、自由に挑戦できたことです。

さらに空き家活用に興味をもつ人が市内だけではなく、市外からもやって来てくれたり、仲間も増えました。人的ネットワークの広がりの中から事業者に新たなビジネスの機会が生まれることもありました。

また、近隣の方からはにぎわいが生まれたことを喜んでいただきました。なんでも好きなものを持ってきて交換できる「0円マーケット」を開いていた利用メンバーは、定期的に「0円」の包丁研ぎも行ったそうですが、近所のご高齢の方に大喜びされたそうです。貸主である空き家のオーナーも「閑静な住宅地で、人気（ひとけ）のないところだったのに、いろいろな人に来てもらえる場として活用してもらえてうれしい。お役に立ててよかった」と話していました。

クローズイベントの最後に事業者とまちづくりプロデューサーによる振り返りのトークイベントを実施。左から太田風美さん、西村愛子さん、達也さん、まちづくりプロデューサーの髙橋大輔さん。

2階の部屋や庭を活用する仲間も増えました！

だれでも気軽に行ける場所は必要だと思います

左／「おにわであそぼう!」を運営した中山昭子さんとお子さん。この日はミニコンロでマシュマロを焼いたりして楽しんでいた。中2点／2階の部屋には利用メンバーのチラシが貼られていた。子どもたちが遊ぶスペースにもなった。右／「こどもの本と親子スペース ことばこ」を運営した高松保江さん。

富士見BASEの2階には和室と洋室の2部屋がありフリースペースとなっていました。庭もあるため、それらのスペースを活用して活動してもらえる利用メンバーを募集し、10組が登録をしました。

実際の利用頻度には差がありましたが、曜日を決め、定期的にフリーマーケットを開催したり、親子で遊べるスペースを開いたりしてくれました。子どもの本や親子の時間を楽しむ、地域に開かれた場所として「ことばこ」を週1回ペースで開催した高松保江さんは「自分も子どもをもつ母親になって、コロナ禍で孤独に子育てをしている親が気軽に行ける場所が近所に少ないと、さみしさを感じていました。ここでは予約も事前連絡も不要にして、自由に来て、自由に話したり、時間を過ごせる場所にしたいと思いました」と参加理由を教えてくれました。

庭スペースを使って子どもの「あそびば」を提供した中山昭子さんも、「子どもが放課後に自分のペースで過ごせる場をつくりたい」と参加したそうです。ここでもいろいろな出会いが生まれていました。

課題

事業者（運営者）の負担の大きさ

いつでも自由にだれでも来られる地域の「居場所」にすることが理想だが、運営側の人間がいないときに開けておくことはできない。定時に開けて、閉めることは、それぞれが別に本業を持っていることから想像以上に大変だった。

運用ルールを明確にすべきだった

事業者は基本的に自由にいろいろなことにチャレンジできたが、「商売」はどこまで自由にしていいのか、子どもだけの来訪を認めるかどうかなど、禁止事項を含め、運用ルールを最初に明確にしたほうが使いやすかった。

持続性を生み出すことの難しさ

市役所のサポートもあり、家賃などは助成金で賄われたため公益性ももった場所となった。そのため、「小商い＝ビジネス」の場として活用することに違和感が生まれる雰囲気もあった。持続するためにはビジネスは欠かせず、課題となった。

成果

たくさんの仲間が増えた

空き家の活用に興味を持っている人は意外と多く、市内外から見学者が来た。何かを「やりたい」と考えている人は大勢いて、そういう人たちとのアクティブなネットワークが生まれた。

どんな場所が求められているか、ニーズが見えた

子育ての悩みや、ちょっとした世間話ができるような場所が近所にあればと思っている人が多いことがわかった。駅前などにぎやかな場所ではなく、住宅地の中の古めの民家だからこそ、本音や悩みを話せることもあると感じた。

空き家が空き家でなくなった

運営面では課題もあったが、試行錯誤しながら活用することで人が集まり、にぎわいが生まれ、家が活気づいた。もうその時点で空き家が空き家でなくなった。貸主のオーナーも自分の家の価値を見直すきっかけとなった。

誰もいなくなった家、最後はこんなにたくさんの人が集まる場になりました

調布市空き家エリアリノベーション事業を支えた人たち

LINEも使って情報発信。さまざまなメディアで知ってもらう工夫をしました！

空き家問題に取り組む調布市は、LINE公式アカウント「調布市スマイのミライ教えてナビ！」を開設するなど、さまざまなメディアを活用して情報発信を行ってきました。事業に参画し、支えてくださったみなさんからメッセージをいただきました。

空き家×LINE事業に生徒たちが参画

1 message

晃華学園中学校高等学校

佐藤駿介先生

空き家×LINEの事業に参加させていただき、大変光栄でした。
空き家というテーマについて、最初は生徒たちもなかなか馴染みがなかったようです。しかし、様々な形で調べていくうちに、自分にとって身近な問題であり、放置してはいけない問題であると気づいていったようです。
その思いが、こうして生徒たちのプランという形で結実したことは、教員としても、調布市に関わる人間としても、とても嬉しいです。本当にありがとうございました。

調布市空き家エリアリノベーション全般におけるデザインディレクション、「スマイ家の日常」のマンガ制作

2 message

FULL_DESIGN

古田 裕さん

この事業に関わらせていただいたおかげで、空き家問題が身近に感じられるようになりました。
また、漫画の連載という貴重な機会をいただき楽しく描かせていただきました。

晃華学園の生徒とともに「15年後の我が家へ」住まいのフォトレター展の企画運営

3 message

TAKE3

竹中裕晃さん

動画撮影を通じて、空き家という課題に対する活動を間近で見ることができ、貴重な体験ができました。ありがとうございました。

調布市空き家エリアリノベーションにおけるLINE事業のディレクション

4 message

ソーシャルデータバンク株式会社
カスタマーサクセス本部

久保裕一さん
（コンサルタント）

3年間お疲れ様でした。
仕事上、たくさんのLINEアカウントをサポートさせていただいておりますが、そこでは気づかなかったたくさんのアイディアをいただくことができ、とても刺激的でした。貴重な機会をありがとうございました!

調布市空き家エリアリノベーションにおける映像記録・アーカイブディレクションを担当

5 message

共立女子大学家政学部建築・デザイン学科

松尾亜祐さん（髙橋ゼミ・ゼミ長）

多くの人に空き家について考えてもらうという社会的に意義深い価値のある事業に携われ、大変光栄です。
学生が一丸となって取り組み、また多くの方の心強いサポートにより、成功させることができたと感じております。
調布市の益々のご発展をお祈り申し上げます。

フォトレター展の企画・運営など、クリエイティブディレクションを担当

6 message

メディアエムジー株式会社 第2事業部

斯波文雄さん

フォトレター展の企画・運営に学生の皆さんと一緒に取り組ませていただきました。皆さんの熱意や斬新なアイデアには驚かされることが多く、素晴らしい機会をいただいたことに感謝しております。最終的にはLINEアカウントの登録者数を飛躍的に増やすことに成功し、多くの人にとって「空き家」が身近なものになったことと思います。これから空き家が人や地域の資産として有効に活用されていくことを願っております。

LINE公式アカウント「調布市スマイのミライ教えてナビ!」は令和5年（2023年）3月末で終了しました。